

家畜衛生情報

662号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所 2024.7.10

各地で簡易放牧始まる..... 1	検査室レポート 5
夏場のハエ対策..... 2	☆【トピックス】牛コクシジウム病..... 5
家畜排せつ物管理方法等実態調査を 実施します 3	☆防疫情報..... 6
定期報告等の手続きの電子化について... 3	☆北陸三県和牛子牛市場の開催 6
家畜の中毒について～基本講習会より～ ... 4	☆使用基準改正により使用禁止期間に 注意が必要な動物用医薬品 6
農作業中の熱中症にご注意を..... 4	

各地で簡易放牧始まる



黒部市阿古屋野地区の放牧牛

今年も本格的に夏が到来し、各地で簡易放牧が始まりました。写真は黒部市阿古屋野地区で6月14日に実施された簡易放牧開始イベントの様子です。管理者の阿古屋野森づくりクラブの方から放牧について説明を聞いた地元の保育園児らが、放牧牛2頭に「ここ」と「もも」と名前を付け、歓迎の歌を披露しました。しばし、クズの葉を食べて一休みした2頭の牛は、連れだって放牧場の奥へと歩いていきました。景観保全や獣害対策、飼料コスト削減等を目的として実施されている簡易放牧ですが、長年継続して実施している放牧地では、地元の人々と地域に根付いた季節の風物詩となっています。

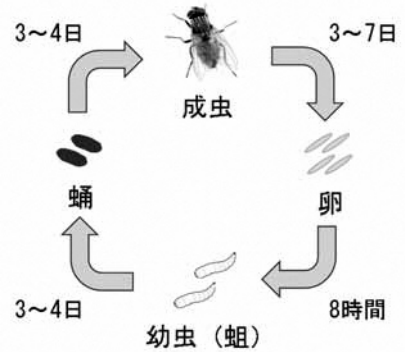
県内では、氷見市、立山町等でも簡易放牧を順次実施しています。下牧の時期が来るまで、広域普及指導センターや家保の職員も定期的に巡回しながら牛たちを見守っていききたいと思います。
(東部家保環境課 宮本課長)

夏場のハエ対策

夏は気温の上昇とともにハエの活動が活発になっていき、ハエの数も増加する時期にあたります。一旦ハエが大発生すると、周辺地域からの苦情の原因となり畜産業のイメージ低下につながります。また、ハエの中でも牛や馬などの大型動物を好んで吸血するサシバエは、痛みによるストレスや牛伝染性リンパ腫等の感染症の媒介によって家畜の生産性を低下させます。暑さのピーク時には一旦ハエの発生は収まりますが、秋口には再び活発化します。そのため、夏場にしっかりとハエ対策を実施してハエの発生を予防しましょう。

【ハエの発生サイクル】

ハエは1回に100~200個の卵を産み、卵 1 齢幼虫 2 齢幼虫 3 齢幼虫 蛹 成虫となります。気温 25℃ では約 2 週間、30℃ では約 1 週間で卵から成虫になります。成虫になったら 3~7 日程度で産卵を開始するので、ハエの発生サイクルは 2~3 週間となります。ハエの発生時は飛び回る成虫に目を奪われがちですが、農場に生息するハエのうち成虫の割合は 20% 程度で、残りの大部分は卵、幼虫、蛹の状態が存在しています。そのため、卵・幼虫・蛹に対する防除対策が重要です。



夏季のハエ発生サイクル

【対策】

1 環境対策

基本は環境対策です。ハエは生糞や残った餌など湿った環境を好んで卵を産み付けます。そのため、こまめに除糞と清掃を行い適切に堆肥化することで、発酵熱により卵・幼虫・蛹を駆除できます。夏は約 1 週間で卵から成虫になるため、1 週間より短い間隔で除糞することが肝要です。

2 薬剤による殺虫

ハエが発生してからは各成長ステージに対応した殺虫剤を使用する必要があります。

対象	使用法	薬剤の種類	特徴
幼虫	直接散布	I GR 製剤：脱皮阻害剤（シロマジン、ネポレックス、ラーバデックス等）	薬剤を経口摂取すると表皮が硬くなり、脱皮時に幼虫が動くと表皮が破裂して死亡。採食行動が盛んな 1~3 齢幼虫の前期までに薬剤を散布する。卵を見つけた直後から 2 週間隔で散布すると効果的。
		I GR 製剤：幼若ホルモン様物質（金鳥 PPK、ラモス SG、サイクラレーテ SG 等）	幼若ホルモンにさらして蛹化・羽化を阻害し死亡。薬剤に触れるだけで効果があるので、あまり摂食しない 3 齢中後期の蛆や卵、蛹にも効く。
幼虫 / 成虫	直接散布	ピレスロイド系（ペルメトリン乳剤、ETB 乳剤等）	人や家畜に毒性が低いので広く使用されている。即効性はあるが、残効性はないので頻回の散布が必要。
		有機リン系（ネグホン、スミチオン、トヨダン等）	即効性で効果が高いが人や家畜に毒性がある。耐性ができやすい。
成虫	毒餌	ネオニコチノイド系（ノックベイト、アジタ等）	誘引剤が混合されている殺虫剤をハエが集まる場所に設置。サシバエは誘引できない。
	残留噴霧	カーバメイト系（ボルホ、サンマコー等）	残留効果が期待できる薬剤をハエが止まる壁や柱等にあらかじめ塗布する。

※同一种類の薬剤を使い続けると薬剤耐性が生じることがあります。定期的に異なる種類の薬剤を切り替えて使用するようにしましょう。また、薬剤によっては休薬期間が定められているものがあります。添付文書をよく読み用法・用量を守って使用しましょう。

3 その他

上記の他にも、イエバエやサシバエの天敵を用いた生物学的駆除対策があり、ハエの蛹に卵を産み付ける寄生蜂「ミニワスプ」、ハエの幼虫を捕食する天敵バエ「オフィラ」といったものが製品化されています。また、ハエ取りシート（Tトラップ、モウ安心等）で物理的に捕獲する方法もあります。これらの対策を上手に組み合わせて、総合的にハエ対策を実施しましょう。

（東部家保環境課 宮本課長）

家畜排せつ物管理方法等実態調査を実施します

今年度、農林水産省による家畜排せつ物管理方法等実態調査が実施されます。本調査は平成21年および令和元年に実施した「家畜排せつ物処理状況調査」の継続調査です。

近年、「堆肥の使用量倍増」や「化学肥料の使用量削減（2030年：2016年肥料年度比20%減）」などの堆肥関連の重要業績評価指標が設定されたことや、国の温室効果ガス削減目標（2030年：2013年度比46%減）が設定されるなど、より細かな家畜排せつ物の管理方法や堆肥の生産量等の把握が求められるようになってきています。今回より従来の調査項目を一部見直した上で、統計法に基づき、本調査が5年間隔で実施されることになりました。

調査対象は家畜排せつ物法に定める管理基準適用農家（牛・馬10頭以上、豚100頭以上、鶏200羽以上）で、全国で約40,000件の畜産農家が対象となります。本調査により、県内だけでなく全国的な規模で各地域の堆肥の生産および使用状況が把握され、耕種農家の減少や畜産の規模拡大により堆肥の余剰が生じている地域での施策検討材料になることが期待されます。本調査結果は令和7年10月公表予定です。

本県では毎年、家畜保健衛生所、広域普及指導センターおよび市町村が実施している「畜産環境保全巡回指導」に合わせて本調査を実施する予定です。調査内容は畜産環境保全巡回指導での調査内容に準じたものとなっています。畜産農家の皆様にはご理解頂き、調査への協力をお願いいたします。

(農業技術課 石原主任)

定期報告等の手続きの電子化について

家畜の所有者が行う飼養衛生管理の状況等の報告（定期報告）等の手続きが、令和6年度から農林水産省共通サービス（eMAFF）で行えるようになりました。（*従前のお通り、紙での提出も受け付けています。）

<電子化のメリット>

- ・インターネット環境があれば農場や自宅からスマートフォンやパソコン等で提出ができます。（郵送や家畜保健衛生所の窓口への提出が不要になります。）
- ・過去の履歴を引用して報告書が作成できるようになります。（前年の履歴を引用できるので、報告書の入力や書類添付の手間が省けます。）
- ・報告したデータに基づき、それぞれの農場にあった飼養衛生管理等の指導が受けられます。

<電子申請が可能となる手続き>

- ・令和6年10月から 家きんの所有者：月1回の飼養衛生管理基準重点7項目の自己点検の報告
- ・令和7年2月から 全畜種の所有者：定期報告
- ・令和7年5月から 豚等の所有者：3カ月に1回の飼養衛生管理基準重点7項目の自己点検の報告

電子申請を行う場合は、gBiz ID エントリー 又は gBiz ID プライム を取得し、eMAFF ID を取得する必要があります。

eMAFF ID 取得の流れは、農林水産省共通申請サービスを確認してください。（<https://e.maff.go.jp/GuestPortal>）



農林水産省
共通申請
サービス

【家畜の所有者向け飼養衛生管理システム講習会の開催（農林水産省主催）】

開催日	時間	場所
令和6年8月27日	午前9時から正午	新潟駅前 NINNO3 会議室
令和6年9月6日	午前9時から正午	金沢駅前 TKP 金沢駅新幹線口会議室

両日とも会場に用意されたパソコンで実技講習が受けられます。

また、当日現地で参加できない方も両日 Teams による web 傍聴ができます。

すべての申込は8月2日（金）までに管轄家畜保健衛生所へお願いします。

(農業技術課 稲葉副係長)

家畜の中毒について～基本講習会より～

令和6年5月13日から24日まで動物衛生研究部門にて令和6年度家畜衛生講習会（基本講習会）を受講しました。その講義から中毒に関する内容を紹介します。

【中毒とは】

中毒とは「ある物質の摂取により生体に毒性の影響が表れ正常な機能が阻害されること」を意味します。中毒の原因は植物、硝酸塩、かび、金属等様々です。家畜の中毒は呼吸や傷口をとおして発生することもあります。多くの場合飼料や飲水、誤食など原因物質が口を經由し体内に摂取されることで引き起こされます。

【銅中毒】

牛で問題になっている中毒の一つに銅中毒があります。銅は体に必要な微量ミネラルですが、不足すると被毛の退色や貧血等の症状を引き起こす一方、過剰な摂取では中毒を起こします。銅中毒の背景として、牛への銅などの微量ミネラル給与が疾病予防や成長促進に効果があるとの報告があり、銅含量の多い飼料や複数の飼料添加物の過給が指摘されています。これらを慢性的に摂取することで、肝臓に銅が蓄積し肝障害による黄疸を引き起こすほか、輸送や天候などのストレスにより血中に銅が放出されると溶血や赤色尿等の症状が現れます。子牛やめん羊は成牛に比べて銅に対する感受性が高く、成牛用の配合飼料を給与されたことによる銅中毒の発生例が近年多く報告されており、注意が必要です。

とはいえ銅は発育になくなくてはならないミネラルであるため、欠乏・過剰のどちらかに偏ることなく適切に給与しましょう。

本県では、令和4年度に肉用牛肥育農場において初めて黒毛和種子牛で銅中毒が発生しました。給与飼料の銅濃度は、要求量を上回るものの銅中毒を引き起こすとされる量より低い値でした。個体差や品種・系統の違い等によりおこる可能性もありますので、気になる症状が発見された場合には早めに診療獣医師や家畜保健衛生所までご相談ください。

(東部家保防疫課 古林獣医師)

農作業中の熱中症にご注意を

昨年は記録的な猛暑でしたが、今年の夏も平年より暑くなる季節予報が出されています。熱中症による救急搬送は、まだ身体が暑さに慣れていないゴールデンウィーク前後と梅雨明けに急増する傾向があり、熱中症の死亡事故は7～8月に集中しています。家畜の暑熱対策がしてある畜舎内は涼しいかもしれませんが、人が作業する場所によっては風が通らず熱がこもりやすい場所もあります。これからの時期は作業者自身の熱中症にも十分注意しましょう。

- ①その日の天気や気温に加え、熱中症（特別）警戒アラートが発表されていないか確認し、暑い時間帯の作業は極力避けましょう。
- ②のどがかわいていなくても、20分おきに休憩・水分補給をしましょう。涼しい日陰などで作業着を脱ぎ体温を下げ、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。
- ③単独作業は避けましょう。なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。
- ④ファン付きウェアや冷却ベスト、ネッククーラーなどの熱中症対策アイテムを活用しましょう。

環境省
熱中症予防情報



応急処置



- ・涼しい環境へ避難
- ・衣服をゆるめ体を冷やす
- ・水分・塩分を補給

もし、汗をかかない・体が熱い・立ちくらみ・吐き気・頭痛・脱力感・判断力低下など、熱中症の疑いを感じたら、すぐに作業を中断し、応急処置（右図参照）をしましょう。少しでも体調に異変があればすぐに対応することを心がけてください。

(東部家保環境課 宮本課長)

検査室レポート

検査実施状況 (令和6年2月26日～令和6年6月25日現在)

区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数	
病性鑑定	乳用牛	牛トロウイルス病	1	2	2	
		牛ロタウイルス病と牛大腸菌症	1	1	1	
		牛マンヘミア症	1	1	1	
		第四胃穿孔	1	1	1	
		細菌性乳房炎	37	156	348	
		その他	45	55	61	
	肉用牛	牛ロタウイルス病	1	3	3	
		牛コロナウイルス病と牛パスツレラ症	1	1	2	
		牛パスツレラ症	3	5	8	
		牛マンヘミア症	1	1	1	
		牛パスツレラ (マンヘミア) 症と牛コクシジウム病	1	1	1	
		牛大腸菌症	1	1	1	
		牛コクシジウム病	2	2	2	
		肝膿瘍	1	1	1	
		膀胱破裂	1	1	1	
		その他	45	50	61	
	豚	腹膜炎	1	1	1	
		間質性気管支肺炎	1	1	1	
		子宮内膜炎	1	1	1	
		その他	2	2	2	
	鶏	鶏大腸菌症	1	2	2	
		鶏クロストリジウム・パープリンゲンス感染症と鶏コクシジウム病	1	1	1	
		鶏コクシジウム病	1	1	4	
		その他	7	47	50	
	山羊・馬	消化管内線虫症	6	6	6	
		化膿性髄膜炎	1	1	1	
		細菌性乳房炎	1	2	2	
		その他	19	28	28	
	一般検査	牛・豚・鶏・山羊		163	954	1,547
	鳥インフルエンザ検査	鶏	分離・抗体検査	24	240	480
	BSE検査	牛	エライザ検査	0	0	0
TSE検査	山羊	ウエスタンブロットまたは免疫組織学的検査(農研機構 動物衛生研究部門に依頼)	7	7	7	
豚熱検査	野生いのしし	PCR検査	16	267	267	
合計			395	1,843	2,895	

【トピックス】牛コクシジウム病

寄生虫の一種であるコクシジウムは、オーシストという虫卵の経口感染によって伝播し、下痢(血便)を引き起こします。重症例では、激しい粘血便の下痢、疝痛症状を示し死亡することもあります。本病の対策として、畜舎の洗浄・消毒により、畜舎内のオーシストを減らすことが重要ですが、一般的に使用されている逆性石けん等の消毒薬は効果がないため、熱湯やオルソ剤による消毒が有効です。また、サルファ剤等の投与が治療や予防に効果的です。サルファ剤等の使用は、農場の発生状況や飼養状況によって適切な投与時期等が異なりますので、獣医師や家畜保健衛生所にご相談ください。

(東部家保検査課 山口主任)

防疫情報

県内の主な家畜伝染性疾患の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
肝膿瘍	牛	5月18日	1	1	
牛パストツレラ症	牛	5月29日	1	1	
牛コクシジウム病	牛	6月14日	1	1	
		6月18日	1	1	
豚丹毒(届出伝染病)	豚	6月5日	1	2	と畜場発見
鶏大腸菌症	鶏	5月22日	1	2	
鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症 と鶏コクシジウム病	鶏	6月6日	1	1	
鶏コクシジウム病	鶏	6月6日	1	1	
山羊の消化管内線虫症	山羊	5月30日	1	1	
		6月4日	1	1	
		6月8日	1	1	

県内における野性のしし豚熱 PCR 陽性事例(令和6年6月4日以降)

(7月3日現在)

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	6月4日	黒部市福平地内	成獣	雌
2	捕獲	6月11日	魚津市大字石垣村地内	成獣	雌
3	捕獲	6月10日	氷見市国見地内	成獣	雄
4	捕獲	6月14日	砺波市庄川町名ヶ原地内	成獣	雌

北陸三県和牛子牛市場の開催

6月27日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和6年度第2回北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢109頭、雌63頭の計172頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢21頭、雌20頭の計41頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比マイナス28頭で14%の減少となりました。

平均価格は、去勢で492千円(4月市場569千円)、雌で462千円(同502千円)、全体では481千円でした。また、最高価格は去勢で762千円、雌が792千円でした。

次の開催は令和6年8月22日(木)になります。

(東部家保防疫課 宮澤副主幹)

使用基準改正により使用禁止期間に注意が必要な動物用医薬品

改正日	医薬品	使用対象動物	用法及び用量	使用禁止期間	製品の名称 (製造販売会社名)
令和6年 5月30日	クエン酸 モサプリドを有効成分とする強制経口投与剤	馬	1日量として体重1kgあたり2mg以下の量を強制的に経口投与すること。	畜体2日間	プロナミドE散1% (物産アニマルヘルス株式会社)
		牛		食用に供するためと殺する前1日間	牛用プロナミド散2% (物産アニマルヘルス株式会社)

(東部家保環境課 宮本課長)

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編集者 宮本 剛志(富山県東部家畜保健衛生所)
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

